

プログラム

特別講演

特別講演

2021年 12月 16日 12:50～13:50

座長： 渋谷 淳

(東京農工大学 大学院 共同獣医学専攻)

『全身全細胞解析の実現にむけて』

演者： 上田 泰己 (東京大学大学院医学系研究科、理化学研究所生命機能科学研究センター)

教育講演

教育講演

2021年 12月 17日 12:50～13:50

座長： 菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

『エピジェネティクス入門 ―その分子基盤から臨床応用まで―』

演者： 仲野 徹 (大阪大学大学院医学系研究科・病理学)

シンポジウム

シンポジウム 1

2021年 12月 16日 9:50 ~ 11:50

『新技術が作り出す毒性機序研究の新たな可能性』

座長：藤本 和則（第一三共株式会社 安全性研究所）

宮脇 出（大日本住友製薬株式会社 前臨床研究ユニット）

S1 - 1： 質量顕微鏡法による医薬品の毒性メカニズム研究

○瀬藤 光利

（浜松医科大学 国際マスイメージングセンター、医学部 細胞分子解剖学講座）

S1 - 2： In vivoイメージング技術の毒性評価への応用

○藤井 雄太、吉野 有香、千原 和弘、宮脇 出

（大日本住友製薬株式会社 前臨床研究ユニット）

S1 - 3： HLA遺伝子導入マウスを用いた特異体質薬物毒性の理解

○青木 重樹、伊藤 晃成（千葉大学 大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室）

S1 - 4： 染色体工学技術によるヒト化モデル動物・多機能細胞の作製と創薬研究への応用

○香月康宏（鳥取大学 染色体工学研究センター）

シンポジウム 2

2021年 12月 16日 14:30 ~ 16:30

『機序を踏まえた、動物を使用しない毒性・安全性評価』

座長：伊藤 晃成（千葉大学 大学院 薬学研究院）

吉成 浩一（静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野）

S2 - 1： マイクロ工学を基盤技術とする生体模倣システム（MPS）とその応用

○木村 啓志（東海大学 工学部 機械工学科、マイクロ・ナノ研究開発センター）

S2 - 2： 評価初期の機序推定を目指した化合物の毒性予測モデルの開発

○天野 雄斗（花王株式会社 安全性科学研究所）

S2 - 3： ヒト外挿性評価を試みるin vitro approachと将来

○篠澤 忠紘（武田薬品工業株式会社

Preclinical and Translational Sciences | Drug Safety Research & Evaluation）

S2 - 4： ラット反復投与毒性予測におけるインビトロ試験の活用：AI-SHIPSプロジェクトでの事例紹介

○吉成 浩一（静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野）

『オルガノイド技術の創薬研究への展開（日本毒性病理学会共催企画）』

座長：古川 賢（日産化学株式会社 生物科学研究所）

小川 久美子（国立医薬品食品衛生研究所 病理部）

S3 - 1：オルガノイドを用いる *ex vivo* 化学発がんモデル○今井 俊夫^{1,2}、石ヶ守 里加子²、中西 るり²、成瀬 美衣²（¹国立がん研究センター 研究所 がんモデル開発部門、²国立がん研究センター 研究所 動物実験施設）

S3 - 2：化学発がん性物質暴露によるオルガノイドの形態変化の解析：発がん性評価指標としての可能性

○平田 暁大¹、田邊 健斗¹、入澤 祐太^{1,2}、今井 俊夫³、酒井 洋樹¹（¹岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科 獣医病理学研究室、²あすか製薬株式会社 薬物動態・安全性研究部 安全性研究課、³国立がん研究センター 研究所 がんモデル開発部門）

S3 - 3：マウス腸管由来オルガノイドを用いた毒性評価への応用

○美谷島 克宏¹、齋藤 由季^{2,3}、服部 一夫²（¹東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科、²東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科、³新潟県立大学 人間生活学部 健康栄養学科）

S3 - 4：三次元オルガノイド培養法を用いたオーダーメイド獣医療の開発と創薬への応用

○臼井 達哉（東京農工大学 農学部 獣医薬理学研究室）

『多様な医薬品モダリティに対応する毒性研究』

座長：齋藤 嘉朗（国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部）

森 和彦（第一三共RDノバーレ株式会社）

S4 - 1：DNA/RNAレベルで生体を制御するモダリティの毒性研究

○井上 貴雄（国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部）

S4 - 2：再生・細胞医療に用いられる細胞加工製品の造腫瘍性評価のための試験法開発

○佐藤 陽治（国立医薬品食品衛生研究所 再生・細胞医療製品部）

S4 - 3：抗体薬物複合体の非臨床安全性評価

○間 哲生（第一三共株式会社 安全性研究所）

S4 - 4：非天然型構造を有するペプチド医薬品の安全性評価

○齋藤 嘉朗¹、出水 庸介²（¹国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部、²国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部）

企業シンポジウム

企業シンポジウム 1

2021年 12月 16日 13：50～14：20

株式会社ボゾリサーチセンター

『4週間の反復投与毒性試験結果（肝臓小核試験および病理組織学的検査）
から肝発がん性はどこまで予測できるか？』

- 濱田 修一
（株式会社ボゾリサーチセンター）

企業シンポジウム 2

2021年 12月 17日 11：20～11：50

株式会社LSIM安全科学研究所

『がん創薬支援（PDX）及び再生医療への取り組み』

- 常住 真一郎、○大田 泰史、飯田 真志
（株式会社LSIM安全科学研究所 熊本研究所）

企業シンポジウム 3

2021年 12月 17日 14：00～14：30

株式会社フェニックスバイオ

『PXBマウスを用いたNASH病態モデルの構築とヒト肝毒性マーカーに関して』

- 立野 知世（株式会社フェニックスバイオ 研究開発部）
-

ポスター発表プログラム

*若手優秀発表賞応募演題

ポスターセッション 1

2021年12月16日

16:40 ~ 17:10

- P-1 : 急性腎障害後に発現するCD44は部分的上皮間葉転換を生じた尿細管において細胞外基質産生を誘導し、慢性腎臓病への移行を促進する
○松下 幸平、豊田 武士、赤根 弘敏、森川 朋美、小川 久美子
(国立医薬品食品衛生研究所 病理部)
- P-2* : アクリルアミドの成熟ラット海馬神経新生の標的及びその毒性機序
○小川 文一朗^{1,2}、中西 豊¹、若松 正樹¹、高橋 康德^{2,3}、渋谷 淳^{2,3}
(¹大正製薬(株) 安全性研究室、²東京農工大学 獣医病理学研究室、³東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻)
- P-3* : 海馬におけるDNAメチル化制御の破綻に着目した神経伝達関連発達神経毒性指標の探索
○高橋 康德^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、山下 理紗子¹、清水 沙織¹、前田 夏乃¹、岡野 拓^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、唐 倩^{1,2}、小澤 俊介^{1,2}、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻)
- P-4* : 海馬における神経突起伸展及びシナプス可塑性関連遺伝子のDNAメチル化制御破綻に着目した発達神経毒性指標の探索
○尾城 椋太^{1,2}、高橋 康德^{1,2}、山下 理紗子¹、清水 沙織¹、前田 夏乃¹、岡野 拓^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、唐 倩^{1,2}、小澤 俊介^{1,2}、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻)
- P-5 : LPS前投与による凝固系活性化を介したミトコンドリア膜透過性遷移感受性増強の機序解析：マウスモデルにおける基礎評価
○中島 峻汰、池山 佑豪、竹村 晃典、伊藤 晃成
(千葉大学 大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室)
- P-6* : 薬物に起因したミトコンドリア膜透過性遷移誘導メカニズムにおける脱共役の役割
○竹村 晃典、佐藤 智之、伊藤 晃成
(千葉大学 大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室)

- P-7* : 核内受容体PXRによる肝がん進行抑制機序の解析
○佐藤 拓海¹、志津 怜太^{1,2}、馬場 遼之介²、石村 麻衣²、保坂 卓臣^{1,2}、佐々木 崇光²、
菅野 裕一朗^{1,2}、吉成 浩一^{1,2}
(¹静岡県立大学 薬食生命科学総合学府 衛生分子毒性学講座、
²静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野)

ポスターセッション 2

2021年12月16日

17:10 ~17:40

- P-8* : 核内受容体CARのヒト型変異導入マウスを用いたCARによる肝発がんプロモーション作用の種差解析
○牧田 夏希、志津 怜太、曾部 圭一郎、保坂 卓臣、菅野 裕一朗、佐々木 崇光、吉成 浩一
(静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野)
- P-9* : 乳幼児期マウスにおける核内受容体CARの活性化が甲状腺ホルモンシグナルに及ぼす影響
○田代 紗莉依、志津 怜太、保坂 卓臣、菅野 裕一朗、吉成 浩一
(静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野)
- P-10* : ラットの胎生期免疫活性化脳発達障害モデルに対する α -glycosyl isoquercitrinの改善効果
○岡野 拓^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、高橋 康徳^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、唐 倩^{1,2}、小澤 俊介^{1,2}、
小柳 美穂子³、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻、
³三栄源エフ・エフ・アイ株式会社)
- P-11 : ラットの妊娠期polyinosinic-polycytidylic acid曝露による児動物の海馬神経新生障害に対する α -glycosyl isoquercitrinの保護効果
○高嶋 和巳^{1,2}、岡野 拓^{1,2}、唐 倩^{1,2}、高橋 康徳^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、小澤 俊介^{1,2}、
小柳 美穂子³、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻、
³三栄源エフ・エフ・アイ株式会社)
- P-12* : *N*-methyl-*N*-nitrosoureaの28日間反復経口投与ラットの脳領域に広く共通して発現変動する炎症・免疫応答関連遺伝子
○小澤 俊介^{1,2}、渡邊 洋祐¹、齋藤 文代^{3,4}、赤堀 有美³、岡野 拓^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、
高橋 康徳^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、唐 倩^{1,2}、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学 大学院・共同獣医学専攻、
³化学物質評価研究機構、⁴岡山理科大学 毒性学研究室)

- P-13 : Effect of the herbicide glufosinate-ammonium exposure on neuronal synapse formation
○Hironori Izumi¹, Maina Demura¹, Ayako Imai¹, Tomoyuki Yoshida¹, Ryohei Ogawa²,
Hisashi Mori¹
(¹Department of Molecular Neuroscience, ²Department of Radiology,
Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama)
- P-14 : びまん型及び腸型胃がんにおけるRNA制御に関する分子ネットワーク解析
○田邊 思帆里¹、Sabina Quader²、小野 竜一³、Horacio Cabral⁴、青柳 一彦⁵、
広瀬 明彦¹、横崎 宏⁶、佐々木 博己⁷
(¹国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部、
²(公財)川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター、
³国立医薬品食品衛生研究所 毒性部、⁴東京大学大学院 工学系研究科、
⁵国立がん研究センター 基盤的臨床開発研究コアセンター 臨床ゲノム解析部門、
⁶神戸大学大学院 医学研究科、
⁷国立がん研究センター 基盤的臨床開発研究コアセンター 創薬標的シーズ探索部門)
- P-15 : マウス受精卵のCRISPR/Cas9を用いたゲノム編集によってオンターゲット部位に
生じた多様な非意図的変異の次世代伝達
○五十嵐 智女¹、安彦 行人^{1,2}、小野 竜一¹、高木 篤也¹、高橋 雄¹、栗形 麻樹子¹、
北嶋 聡¹
(¹国立医薬品食品衛生研究所 毒性部、²国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)